

理事長エッセイ

牛丼は進化する？



公益社団法人 日本畜産学会
理事長 菊地 和弘

牛丼一筋 80 年♪～をご存じでしょうか？ Y 家のテレビ CM でした。子供が父親？から牛丼をお土産にもらって（それを食べれば）明日はホームランまで打てるという特典も保証されていました（YouTube でご確認ください）。調べると 1980 年頃とのこと、私が東北の中核都市で浪人生活をしていたころで、当然ながら初めて牛丼を食べて、そのおいしさに感激しました。その牛丼の材料（牛肉）について記憶と記録をほじくり返しました。

2003 年、アメリカで伝染性海綿状脳症 BSE (1) の疑いのある牛が見つかり、日本は即刻アメリカ産牛肉の輸入を停止しています。Y 家では、ほとんどの牛肉食材をアメリカ産輸入牛肉に依存していたため、またたく間に、メニューから「牛丼」が消失しました。これについておかしいな、と思ったことがあります。その際、その時の社長さん（と思います）は、「他国から輸入することも考えたが、Y 家の品質を守る牛肉の全量確保は厳しく、2003 年末に牛丼販売の休止を決定する」(2)、と訴えていたと記憶しています。はたして、その牛肉自由化の前は材料の大部分は国産牛肉だったのではないかと、思いました。牛肉輸入自由化 (1) は 1991 年ですので、創業 (1899 年) から約 90 年間はそれに当たるはずで、残念ながら、その期間の原料の由来についての記載は見つけれませんでした。日本では、畜産物の流通は畜産物の価格安定等に関する法律 (1961 年) (1) により長く守られてきましたが、牛肉輸入自由化したが、この牛肉輸入自由化の後、WTO 協定 (1995 年) (1) を経て、畜産物はすべて輸入自由化品目に移行しています。特に、牛肉輸入自由化の時期は就職して 2 年目ということもあり、かなりインパクトがありました。牛肉とともにやり玉に挙がったのはオレンジで、それまでは米国からの輸入量に上限を設けていたが撤廃されました。これは日米にあった経済摩擦によるものです。日本としては貿易を自由化して工業製品は輸出をしたいが、コメをはじめとする農産物は守りたいので輸入自由化したくない、ギリギリのところ犠牲になったのが牛肉とオレンジというわけです。輸入自由化を経て、安いアメリカ産を店頭で見かける機会が増えたとされています。一方で、和牛については、これらの政策からはほとんど影響を受けなかったとの報告もあるようです (3)。つまり、これを契機に和牛をはじめとして畜産物のブランド化へ進み今日に至っております。ブランド化に直接関与しませんが、Y 家の取り組みがあります。「これ (牛肉自由化) までは商社に商材を発注するだけであったが、Y 家で使う部位だけを効率的に仕入れるため、より使いやすい牛肉のトリミングの研究を開始した。この Y 家用のカット部位は Y 家スペックと命名され、のちに「ジャパンスペック」となり、現在はショートプレートという名称で流通している」(2 一部改変) とのこと、牛丼ならぬ牛肉は進化しています。ちなみに、豚肉の輸入が最初に自由化されたのは 1971 年、鶏肉についてはその記載が見つからず、昭和 30 年代以降、外国産の輸入自由化された、とのこと。一方で、諸外国への畜産物の輸出も大きく増えています。ブランド化と相成り、国内の畜産業の発展への寄

与を期待したいです。

最後に、創業当時の国産牛（当然、格付（4）が A5 ランクではないはずの和牛？）の牛丼を食べたいと思いました。限定でもよいので販売してくれば、爆売れかと思うのですが…。あるいは、私たちを含めて業界人だけの需要かもしれません。

文献

- (1) 畜産用語辞典，日本畜産学会編。
- (2) <https://www.yoshinoya.com/>
- (3) 土居直史 牛肉自由化は牛肉価格をどれほど低下させたか，札幌学院大学経済論集 2013；6：25-39.
- (4) 食肉格付とは。 <https://www.jmga.or.jp/standard/>

【引き続きのお願い】

学会 HP のバナーに「畜産用語辞典」があります。かつては冊子版として養賢堂から刊行されていたこの辞典が、現在は最新の内容を取り込みつつ、Wikipedia 形式で更新されています。今回は文献（1）として引用しています。畜産学の最新情報を簡単に調べられるだけでなく、どなたでも無料でご利用いただけるのが大きな特長です。これは公益法人としての学会が取り組む社会貢献活動の一環でもあります。他の検索サイトに行く前に、学会 HP のバナーをクリック、もしくは右の QR コードからご利用ください。

